



「健口美[®]」レポート
2022

令和4年度活動報告書

◆ ご挨拶



公益財団法人 ライオン 歯科衛生研究所

理事長 濱 逸夫

私どもの口腔保健普及活動は、口腔衛生への関心を高めることを目的に1913年に開催した「ライオン講演会」を原点としています。また、1921年には日本で最初となる児童専門の歯科医院「ライオン児童歯科院」を開設しました。この2つの活動が当財団の前身となっています。2010年10月からは「公益財団法人ライオン歯科衛生研究所」となり、口腔保健の普及啓発を図り、心身の健康と福祉に寄与することを目指し、さまざまな活動を展開しております。

2019年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）2019」には、口腔の健康が全身の健康にもつながるといふ認識のもと、生涯を通じた歯科健診、歯科医師・歯科衛生士による口腔健康管理などの歯科口腔保健の充実、入院患者等への口腔機能管理などの医科歯科連携に加え、介護、障害福祉関係機関との連携を含む歯科保健医療提供体制の構築に取り組むことが明記されています。このように、歯や口の健康は、生活の中で大切な機能を担っており、その重要性はますます増してきています。

新型コロナウイルスについては感染法上の位置づけが2023年5月に「5類」感染症に移行することが正式決定され、ウィズコロナの取り組みが進んでいますが、この3年間に多くの方々の意識の変化を促し、マスクの着用や手洗いの実施が習慣化しました。また、口腔環境がウィルス感染に関連するといったエビデンスについても報告がなされ、健全な口腔状態を保つことの重要性が高まっています。

このような環境下、ライオン歯科衛生研究所は、人々が健康で幸せな毎日を過ごし、満ち足りた人生を送れるよう、一生涯を通じた予防歯科の実践に繋がるオーラルケア習慣の普及啓発活動や口腔保健に関するさまざまな事業を進化、拡大することにより、サステナブルな社会の実現に取り組んでまいります。

この度、当財団の活動をより多くの方々に知っていただくことを目的に年次報告書「健口美レポート2022」を作成いたしました。ご高覧いただければ幸甚に存じます。

今後とも、当財団へのご理解とご指導ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

◆ 「健口美」に込めた想い



（公財）ライオン歯科衛生研究所では、「食べる」、「話す」、「笑う」など、生活するうえで大切な役割を果たす口腔に対して、人々のケア意識のさらなる向上を目指し、「健康な心と身体はお口から！「健口美」」のコンセプトのもと、生活者の生活の質（QOL）の向上につながるように支援を行っています。

Oral Health（口腔の健康）、Oral Beauty（口腔の美しさ）、Communication（コミュニケーション）の三つの要素が機能し、かつ調和していることからもたらされるもの、それが「健口美」です。三つの要素を保持・増進することで、口腔だけでなく身体の健康および心の健康、その結果として生活の質（QOL）の向上に繋がると私たちは考えます。「健口美」には健康なお口の「健」、良好なコミュニケーションを行う「口」、美しいお口の「美」という意味が込められています。

◆ 財団の概要

「お口の健康」を通じて、生活の質の向上に努めます

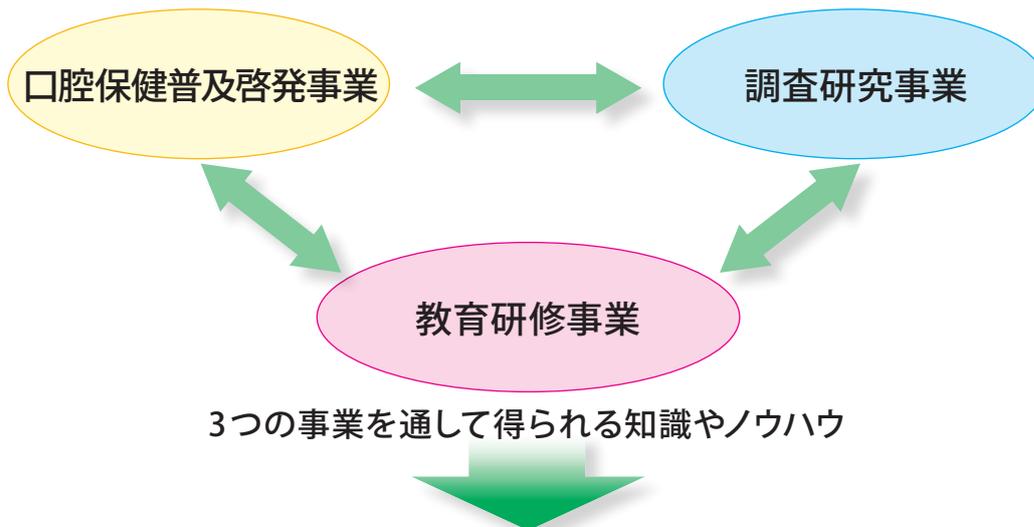
ライオンは「企業活動で得た利益を社会に還元する」という創業以来の一貫した理念のもとに、1913年から口腔保健の普及・啓発活動を行ってきました。当財団はその前身としての「ライオン児童歯科院」を1921年に開設、その後1964年に財団法人ライオン歯科衛生研究所として発足、2010年には公益財団法人ライオン歯科衛生研究所として「口腔保健普及啓発事業」、「調査研究事業」、「教育研修事業」の3つの事業を推進しています。

財団の3つの公益事業

- 1 口腔保健普及啓発事業** ▶ 乳幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージにおける口腔保健のテーマに応じた普及啓発を推進しています。
- 2 調査研究事業** ▶ 口腔保健普及啓発事業や予防歯科研究活動を通して得られた研究成果を専門家や生活者に情報発信しています。
- 3 教育研修事業** ▶ 保健指導者や歯科専門家に対する各種セミナーや講演会を実施しています。

当財団では、これら3つの事業を通して、生活者の口腔の健康を保持・増進し、生活の質の向上に貢献できるよう努力を続けています。

(公財)ライオン歯科衛生研究所の活動



口腔の健康の保持・増進を通して、生活の質(QOL)の向上に貢献しています。

社会問題に対する研究活動の取り組み

認知機能低下および認知症と歯周病病態との関連性 —もの忘れ外来患者を対象とした観察研究—

超高齢社会のトップランナーである日本において、健康寿命の延伸は喫緊の課題です。一方、それを妨げている代表的な疾患が認知症であり、このような現状の中で、制御可能な因子を明らかにし、その情報を有効に活用して認知症の発症や進行を抑制できれば、高齢者のQOLの向上に寄与するとともに、我が国の医療費削減につながるのではないかと考えています。

そこで当財団では、国立長寿医療研究センターと共同で高齢者の口腔状態と認知機能の関連について研究を進めています。今回、国立長寿医療研究センターもの忘れ外来患者を臨床的認知症尺度検査により、健常者群、軽度認知機能低下(MCI)群、および認知症群に分類し、歯周病病態や口腔機能を比較検討した結果、認知症群はMCI群に比較して深い歯周ポケットが多いことが判明しました。また、認知症群は健常群やMCI群に比べ舌唇運動機能、反復唾液嚥下、および舌圧が低下していることが明らかになり、これらの結果を第65回春季日本歯周病学会学術大会において発表いたしました。

最新の歯周病と認知機能低下に関するメタ解析によると歯周病患者の認知機能低下は健常者に比べ相対リスクが1.33倍であることが報告されています¹⁾。また、高血圧、喫煙、糖尿病などの認知症発症のリスク因子に対し、リスク対策を実行できる国々では、認知症患者数と医療費コストが減少すると予測されています。そこで、当財団では今後、歯周病病態と認知機能低下の因果関係を関連する様々な因子について詳細に検討するとともに、今回の発表内容に関連した情報をもちに、広く国民に口腔管理の重要性を発信してまいります。

参考文献

1) Harriet Larvin, Chenyi Gao, Jing Kang, Vishal R Aggarwal, Susan Pavitt, Jianhua Wu The impact of study factors in the association of periodontal disease and cognitive disorders: systematic review and meta-analysis Age and Ageing, Volume 52, Issue 2, February 2023, afad015.



第65回春季日本歯周病学会学術大会にて発表を行う財団歯科医師



第65回春季日本歯周病学会学術大会にて日本ポスター発表を行う財団歯科衛生士

職域での歯科医療費に関する研究活動の推進

健康保険組合では医療費レセプト・健診情報等のデータの分析に基づく、効率的・効果的な保健事業をPDCAサイクルで実施することが求められています。

健康保険組合において医療費における歯科医療費の割合が高いことがわかっています。しかしながら、職域では口腔の健康の保持増進を目的とした歯科保健活動を実施している健康保険組合や企業は少なく、歯科保健活動と歯科医療費との関連性を検証している報告は極めて少ないのが現状です。そこで今回、獨協医科大学医学部公衆衛生学講座と共同で職域での歯科健診への受診頻度と歯科医療費および内科医療費との関連性を明らかにするために研究を行いました。

本研究は、20歳から59歳の従業員2691名(男性2099名、女性592名)を対象に、12年間の職域での歯科健診受診頻度から、「1年に1回」、「少なくとも2年に1回」、「それ以外の不定期」の3群に分類し、12年間の一人あたりの累積歯科医療費および累積内科医療費との関連を調べました。

その結果、20～39歳では「それ以外の不定期」群に比べ「1年に1回」群、「少なくとも2年に1回」群で累積歯科医療費が有意に低く、40～59歳では「1年に1回」群で有意に低いことが示されました。

これらの結果から、職域での「1年に1回」、「少なくとも2年に1回」の歯科健診受診は、歯科医療費の抑制と関連していることが示唆され、特に「1年に1回」の歯科健診受診の推進が重要であることが考えられました。

本研究に関する論文がBMJ OPENに「Association between the interval of worksite dental check-ups and dental and medical expenditures: a single-site, 12-year follow-up study in Japan」という題名で掲載されました。今後も歯科医療費に関する研究を継続し、職域における歯科保健活動を推進してまいります。

ナッジを活用した歯科保健情報に関する研究活動の推進

人は正しい情報を提供されても望ましい行動をするとは限りません。近年、情報提供を補完する介入方法として、ナッジが注目されています。ナッジとは「人々を強制することなく、望ましい行動に誘導するようなシグナル、仕組みまたは戦略」です。厚生労働省はナッジ等を活用した健康づくりを推奨し、ナッジの枠組みEAST(Easy:簡単に、Attractive:印象的に、Social:社会的に、Timely:タイムリーに)の活用を推奨しています。口腔健康分野でもナッジの実践が求められているが、EASTを用いた口腔健康推進活動の報告は少ないです。

そこで本研究は、ナッジを活用した口腔健康行動促進の漫画冊子(以下、ナッジ型漫画冊子)を用いて、20～40歳代の労働者240名を対象に、ナッジ型漫画冊子を配布した群と情報提供型冊子を配布した群に分けウェブ調査を行い、読者の満足度等を調べました。

読者による冊子の印象は、表紙は「面白そう」、「読みやすそう」、「イラストがよい」などで、ナッジ型漫画冊子を配布した群で有意に評価が高かったです。また、「面白そう」、「読みやすそう」など、表紙と本編の印象が一致する傾向の項目も見られました。さらに、ナッジ型漫画冊子を配布した群では歯周病の知識も有意に増加しました。

以上から、ナッジ型漫画冊子は読者の評価が高く、知識向上に役立ち、特に表紙のナッジが重要と示唆されました。本研究に関する論文が日本健康教育学会第30巻4号に掲載されました。

今後も、生活者へ届きやすい情報を検討し評価を行い、その結果を発信していくことで予防歯科推進に貢献してまいります。



「ナッジ理論」を活用した歯科情報冊子

口腔保健普及啓発活動

ホームページ「ママ、あのね。」を通じた取り組み

当財団では、妊婦と乳幼児の保護者を対象に育児や歯と口の健康に関する情報発信サイト「ママ、あのね。」を2018年6月から公開しています。当サイトでは、産婦人科医、小児科医、小児歯科医、マタニティー歯科の歯科医、小児栄養学の専門家の監修のもと、妊娠中から乳幼児期にかけての育児・歯科・食・病気等の情報を月齢別に分かりやすく掲載しています。「ママ、あのね。」は年間約335万人の皆様にもアクセスいただけるサイトに成長し、当財団の情報サイトの大きな柱となっています。

2022年度は情報の信頼性を高め、社会の動向に沿った情報発信を行うために現在掲載している115記事の見直しを行い、各分野の専門家の指導のもと、「妊娠中に気をつけたい体調管理」や「乳幼児期の病気の予防」、「乳幼児期の口の機能」、「幼児期の歯科受診」等をテーマとした記事の改訂を行いました。

今後も信頼性の高い情報発信はもとより、より多くの妊婦や乳幼児の保護者に歯と口の健康の大切さが伝わり、共感していただけるような情報発信を行ってまいります。



育児と乳歯の健康サイト「ママ、あのね。」

園児向けオンライン歯科保健活動の実施

母子歯科保健活動は、乳幼児のむし歯予防には保護者のむし歯予防への理解と関心を深めることが大切であるとの考えから、1959年より始まりました。現在は、園児に向けた歯科保健指導や、指導者に向けて健康教育の際に活用できる教材提供や情報発信などの支援を行っています。

2022年度は、幼稚園、保育園の合計32園とオンラインで同時接続し、1569名の園児を対象に、歯科保健指導を実施しました。オンラインで実施するにあたり、事前に現場の先生や園医の先生に指導内容やサポートいただきたい点をお送りしたことで、当日はスムーズに指導を実施することができました。また、当日の指導の様子は、一部の保護者にもオンラインで視聴していただきました。

保健指導の内容は、生活習慣の異なる双子の子どもを題材とした歯みがきの大切さを楽しく理解してもらえる紙芝居や、歯ブラシの持ち方、歯のみがき方、うがいの仕方、おやつのはり方について指導を行いました。

今後も乳幼児とその保護者に歯と口の健康の大切さを伝えられるよう、普及啓発を行ってまいります。



園児向けオンライン歯科保健指導の様子

第79回全国小学生歯みがき大会を開催

全国小学生歯みがき大会は、小学生の歯と口の健康意識を育むことを目的に、「歯と口の健康習慣(6月1日～10日)」に合わせて開催しています。1932年に第1回大会を開催し、これまでに参加した小学生は、延べ246万人に及びます。

第79回大会は、DVD教材を視聴する形式で実施し、全国47都道府県及び海外4か国地域の小学校から総数4585校約25万人の参加申込みがありました。

今大会は、「歯と自分をみがこう。」をテーマに掲げ、明海大学学長安井利一先生の監修のもと、高学年の健康課題である「歯肉炎」を題材としております。本編は、歯肉炎の原因や予防方法、生えかわり期に合わせた歯みがきやデンタルフロスの使用方法を中心とした内容となっております。参加した先生方からは、「口の健康について考えるよい機会になった」、「口腔内の細菌や歯肉炎の画像などがあり、児童が理解しやすい内容であった」などのご意見をいただきました。また、参加した児童の約90%が歯みがき大会後にデンタルフロスを使用したいと回答し、よりよいオーラルケア習慣に繋がる結果も得られました。

生涯にわたる健康づくりとして小学生の時期からオーラルケア習慣を身につけることは重要であると考えます。今後も、歯みがき大会を通して、小学生の歯と口の健康づくりを支援してまいります。



全国小学生歯みがき大会に参加しデンタルフロスの実習を行う児童の様子

Kid's歯ツカソンの普及啓発

「Kid's歯ツカソン」は、学習指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の視点を取り入れた健康教育プログラムです。「歯みがき」や「歯と口の健康」をテーマに、小学生が自ら課題を発見し、解決策となるアイデアを考え、発表する過程を通して、歯と口の健康についてはもとより、それ以外のことでも自発的に考え、解決策を考える姿勢が身につくことを目的としています。

2022年度は、全国で5校の小学校が当プログラムを実施しました。児童対象のアンケートでは「むし歯に関する知識定着」や「生活習慣改善の意思」が向上したことが分かりました。先生からの実施後のアンケートでは「家庭でのインタビューや新商品開発など普段とは違う視点で歯の大切さについてアプローチできて新鮮だった」、「楽しみながら関心を高めることができた」とのご意見をいただきました。

東海大学体育学部体育学科の森良一教授に監修いただき、児童や先生のご意見を取り入れつつ、よりよいプログラムになるよう改良を重ねています。これからもより児童が歯と口の健康に興味関心を深め、より指導者が実施しやすいプログラムを提供して学校現場における保健指導の支援を行ってまいります。



Kid's歯ツカソンを通して課題発見に取り組む児童の様子

口腔保健普及啓発活動

日本産業衛生学会関東地方会第299回例会・ 2022年度関東産業歯科保健部会研修会での報告

2023年2月4日に日本産業衛生学会関東地方会第299回例会・2022年度関東産業歯科保健部会研修会が会場、オンライン参加のハイブリッド方式で開催されました。基調講演は東京歯科大学の上條英之先生より「職域における歯科口腔保健の推進についての概要」、神戸製鋼所東京本社健康管理センターの大山篤先生より「産業保健看護部会員の調査概要から」、にしうえ産業医事務所の西埜植規秀先生より「産業医の立場から」と講演があり、産業保健の中で歯科保健活動を進める必要性や産業医、看護職の立場からの意見や要望などを聞くことができました。

当財団は、事例報告として「歯科衛生士として職域における歯科口腔保健事業の取り組み」と題して、職域での歯科健診をはじめ、セミナーや唾液検査、歯科保健指導、情報冊子配布などの活動について、今まで、それぞれの働く環境に合わせ工夫して実施してきた事例を報告させていただきました。

参加者は産業医、産業看護職が多く、皆関心をもって参加していました。また、職域での歯科保健活動の推進に少しでも参考になればと考えています。



当財団歯科衛生士による報告の様子

九州地区での歯科保健活動について

今年度は某組合の依頼を受け、5年間歯科医院を受診していない方を対象に九州地区の離島や、中心地から離れた市町村など11事業所で、唾液検査と歯科保健指導を実施しました。

今回、訪問した事業所周辺の市町村には歯科医院が1つしかないところもあり、通院環境は首都圏よりも厳しい地区もありました。

今回は唾液検査を行い、自分のお口の環境(むし歯菌や白血球など6項目)を客観的に理解したうえで、歯科保健指導を受けていただきました。個別の状況に合わせ、改善が必要な項目に関しては、セルフケアや飲食方法など、日常生活のなかで取り入れやすい方法を提案するように心がけました。多くの参加者からは「歯科医院に行ってみようと思う」と前向きな意見を頂きました。

普段、私たちは定期的に歯科医院を受診することを推進していますが、歯科医院へ行く環境が整っていない方達へ、環境を認めつつも予防的定期受診の必要性をお伝えし、尚且つ、セルフケアを指導することが重要だと改めて気づくことができました。

今後もこのような活動を通じて生活者の健康に貢献してまいります。

『かみかみゴクゴク体操』を通じた口腔保健機能普及啓発活動の推進

当財団では子どもから高齢者まで幅広い年齢層の方に「食べる」、「話す」、「笑う」など生活するうえで大切な役割を担う、口の機能(口腔機能)の重要性について啓発しています。この口腔機能の重要性を理解してもらうきっかけの1つとして、当財団では「かむ力」「飲み込む力」に焦点をあてた「かみかみゴクゴク体操」の啓発を行っています。

2022年度は、11月12日、13日の2日間、神奈川県で開催された全国健康福祉祭「ねんりんピック」や、11月28日～30日の3日間、東京都有楽町駅前広場で開催された「秋の食育・健康フェスティバル」など、各種イベント会場にて、来場した多くの方々に「かみかみゴクゴク体操」を実施いただき、口腔機能の重要性について啓発活動を実施しました。

口腔機能は気が付かないうちに衰えやすい部分です。今後も口腔機能の重要性を認識する方が増え、気になる方は適切な検査を受診するきっかけを与えられるよう、継続して取り組んでまいります。



全国健康福祉祭「ねんりんピック」にてイベントを実施する様子

卓球強化選手に向けた歯科保健活動

日本卓球協会所属の小学生の強化選手を対象に、オーラルケアを定着させ、主体的な健康行動に繋げることを目的に、歯科講話を行っております。2022年度はオンラインを活用しながら、計3回、約100名に講話を実施しました。

ジュニアアスリートとして、高いパフォーマンスを発揮するために、歯と口の健康づくりは重要です。講話では、スポーツと歯の関係性や、アスリートとしての歯の重要性、オーラルケア製品の選び方や、適切なセルフケアの方法についてお伝えしました。

小学生期は、他律から自律への移行期であり、特にジュニアアスリートは、遠征等で親元を離れる機会も多くなります。良好なオーラルケア習慣が、規則正しい生活習慣へと繋がることによって、主体的に健康づくりができる力を育んでもらいたいと考えています。

今後も歯科保健活動を通じて、歯・口腔の健康にとどまらず、全身の健康を見据えた、より高いパフォーマンスの発揮や夢の実現に向けて支援してまいります。



オンラインで歯科講話を行っている様子

保健指導者へ向けた指導者支援の実施

当財団では、より多くの子どもたちが歯と口の健康の大切さを学ぶ機会が得られるよう、幼稚園教諭や保育士、養護教諭などの保健指導者へ向け、健康教育の際に活用できる教材の提供や情報発信を行っております。

2022年度は、全国延べ4ヶ所の保健指導者を対象とした研修会で、歯科保健指導の重要性や実践方法、動画をはじめとするコンテンツの情報提供を行いました。

保健師や保育士を対象とした研修会では、妊娠期のホルモンバランスの変化による影響やつわりとむし歯の関係、乳幼児の歯みがきについて等、妊娠中から乳幼児期にかけた歯と口の健康に関する講演を行いました。また、歯みがき実施の施策のひとつとして、歯みがき時の飛沫予防を考慮した「口閉じ歯みがき」の方法を紹介しました。今後も、保健指導者への情報提供や教材提供を通じて、子どもたちの歯と口の健康づくりに貢献できるよう活動してまいります。



保健指導者に講演を行う当財団歯科衛生士

特別支援学校における歯と口の健康を支援する取り組み

当財団では、障がいの有無に関わらず歯と口の健康の支援を行うため、合理的配慮※に心がけた歯科保健活動を行っております。

2022年度は東海地方を中心に対面とオンラインを活用し、知的障害2校、聴覚障害2校、肢体不自由1校(合計5校)の特別支援学校に対して「歯と口の健康教室」を実施しました。

今年度は初めての試みとして愛知県内の聾学校高等部において、手話を用いた情報保障に加えて、リアルタイム字幕機能を活用して講師の音声文字化しパワーポイントのスライドと一緒に字幕表示する対応を行いました。

その他の特別支援学校の活動においても、事前に児童・生徒の状況や課題を伺い、特別支援学校の先生方や、障がい者支援団体の方々と連携しながら個々の障がいに配慮した授業を心がけています。今後も、障がい者の方々に対する口腔保健普及啓発活動を進めてまいります。



聾学校高等部にて手話とリアルタイム字幕機能を活用して指導する様子

※「合理的配慮」とは、障がいのある方が日常生活や社会生活で受けるさまざまな制限をもたらす原因となる社会的障壁を取り除くために、障がいのある方に対し、個別の条項に応じて行われる配慮をいいます。

「おくちからだプロジェクト」におけるプログラム開発への協力

ライオン株式会社が展開する「おくちからだプロジェクト」は、「歯と口の健康」をテーマに、子ども達に正しいオーラルケアを広め、様々な体験をすることで子ども達の自己肯定感の向上を目指す体験プログラムです。当財団は、本取組みにおいて、オーラルケアの知識や理解を深めるプログラムの開発に協力しています。

これまで、オーラルケアの習慣化を目指して、クイズを交えて楽しく歯と口に関する基本的な知識を習得する「紙芝居」、歯ブラシを自分好みにデコレーションする「デコ歯ブラシ」、ゲームを通じてオーラルケアの知識や理解を深める「はごろく」などのプログラムを開発しました。これらのプログラムを、認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえを通じ、子ども達の食や地域とのつながりを支えるこども食堂を中心に提供しています。

2022年度は、全国886団体、42880人の子ども達に向けて本プログラムを提供しました。こども食堂からは、「子ども達から歯みがきを頑張るとい声がかれた」「歯について学ぶ経験を通じて、他の分野も学びたい意欲へ発展した子もいた」等のご意見をいただきました。

今後も、歯と口の健康を通じて子どもたちに様々な体験を提供し、オーラルケアの習慣化と自己肯定感向上に貢献してまいります。



「はごろく」ゲームを行う様子

口腔保健普及啓発活動

歯科医院で歯科健診を受けることのメリットについての情報発信

ライオン株式会社主催のメディアセミナーにて、「歯科医院で歯科健診を受けることのメリット」について発信しました。2022年9月にライオン株式会社が行った実態調査では、歯科医院の健診を年1回以上受けている方は44%でした。また歯科医院の健診イメージを聞いた結果、早期発見できそう等の意見が出た一方、内容がよく分からないとの声もあり、その内訳は歯科医院に行っていない方の該当率が高い結果でした。歯科医院の歯科健診は学校や企業の健診と異なり、検査や治療を行うだけでなく、検査結果に基づく1人1人に合わせた対応や処置を行います。セミナーでは、予防に繋がる検査やそれに基づく対応や処置の内容をお話し、歯科医院の検査は自分の口の中を知る良い機会となり、その結果に基づく対応や処置は、トラブルが起きる前や現在の状態を維持するための予防となるメリットを説明しました。セミナー内容は、新聞やWEB等に掲載され、多くの方へ情報発信をすることができました。

今後も定期的な歯科医院への通院で、生活者がかかりつけ歯科医院、歯科医師、歯科衛生士を持ち、口腔と全身の健康を維持・向上できるよう、さまざまな活動を行ってまいります。



メディアセミナー収録の様子

ライオン歯科衛生研究所 予防歯科セミナー開催

2022年4月17日、ライオン予防歯科セミナーは、予防歯科の最新情報と診療所で活用できる実践的な内容を提供できるセミナーとして、オンライン配信にて開催いたしました。

また、4月20日～5月15日の期間はオンデマンド配信を行い、延べ3300名の方に参加登録いただきました。

今回のテーマは、「歯科の未来、これから私たちにできること」とし、各分野でご活躍の3名の先生からご講演いただきました。基調講演の天野敦雄先生からは、「生涯28近未来の歯科」について、朝田芳信先生からは、「これからの予防歯科 小児への取り組み」について、竹林正樹先生からは、「わかっているのに予防行動できない人について、行動経済学ナッジを活用した事例を含めお話しいただきました。その後、西沢邦浩先生をコーディネーターとした講師の先生方とのパネルディスカッションでは、歯科の未来、これから私たちにできることについて、歯科衛生士の役割の重要性など活発に議論いただきました。

予防歯科セミナーは、これからも毎年開催し、予防歯科に関心のある特に歯科衛生士の方に役に立つ情報が提供できるよう開催してまいります。



パネルディスカッションの様子

基調講演：天野敦雄先生（大阪大学大学院歯学研究所 口腔分子免疫制御学講座 予防歯科学 教授）▶生涯28 近未来の歯科
講演1：朝田芳信先生（鶴見大学歯学部小児歯科学 教授）▶これからの予防歯科について—小児への取り組み—
講演2：竹林正樹先生（青森県立保健大学）▶わかっているのに、予防行動しない人を動かすには

職域成人における全身健康とRSSTによる口腔機能の関連

食べる、話す、笑うなど口腔は生活するうえで大切な役割を果たします。当財団では、職域成人における全身健康と口腔機能の関連についての研究を推進しております。

オーラルフレイルとは、口腔機能の軽微な低下や食の偏りを含む全身の衰え（フレイル）の一つであり、本人が気づきにくく周囲も見逃しやすいのが特徴です。これを早期に発見し、適切に対応することが機能回復に重要と考えます。しかし、これらに関する職域成人における口腔機能の実態把握や、全身の健康状態や疾患との関連についての調査項目は極めて少ないのが現状です。

本研究は、某企業従業員3,324名を対象に反復唾液嚥下テスト（RSST）を3群（2回以下、3回、4回以上）に分け、全身健康状態、口腔内状態の関連を調べました。RSSTの飲み込み回数は、年齢および性別により有意な差が認められました。飲み込み回数と全身健康の関連は、メタボリックシンドロームの有無、肥満度、空腹時血糖、HbA1c、HDLコレステロールに有意な差が認められ、これらの結果を第95回日本産業衛生学会にて発表いたしました。

今後も職域成人における口腔機能と全身健康に関する研究を行い、情報発信してまいります。



第95回日本産業衛生学会にて発表の様子

◆ 学術発表

当財団では大学や研究機関と連携して口腔保健に関する調査研究を推進し、健康の増進に役立つ最新情報の発信を行っています。
2022年度は3件の論文、8件の学会発表、3件の外部助成を受けた研究活動を行いました。

アンダーライン:財団所員

◆ 誌上掲載

① 原著論文

- ①Toru Ichihashi, Ayae Goto, Enkhtuguldur Myagmar-Ochir, Yasuo Haruyama, Takashi Muto, Gen Kobashi
Association between the interval of worksite dental checkups and dental and medical expenditures: A single-site, 12-year follow-up study in Japan BMJ Open.2022 Oct 12;12(10): e063658.
- ②Seiji Morishima, Kaori Takeda, Setsue Greenan, Yoshinobu Maki
Salivary microbiome in children with Down syndrome: a case-control study BMC Oral Health (2022) 22:438

② その他

- ①後藤理絵, 竹林正樹, 関根千佳, 福田洋
ナッジを用いた口腔健康行動促進に向けた漫画冊子の開発 —20~40 歳代労働者を対象としたウェブ調査によるプロセス評価—
日健教誌, 2022; 30(4): 294-301

◆ 学会発表

- ①森田十蒼子, 山崎洋治, 山本高司, 中井久美子, 田中秀樹, 尾崎愛美, 川戸貴行
成人男性における歯周病と脂肪肝およびその線維化との関連性
第71回日本口腔衛生学会・総会
- ②田口可奈子, 貨泉朋香, 野原佳織, 新明桃, 黒川亜紀子, 小林利彰, 内山章, 日野亜由美, 稲永詠子, 茂呂歩実, 黒木貴子, 石川亮乃, 矢島志門, 唐木隆史, 船山ひろみ, 朝田芳信
小児の口腔機能に関する臨床的評価について—幼児の鼻腔通気度測定— 第60回日本小児歯科学会
- ③久保田好美, 後藤理絵, 関根千佳, 植草康浩
職域成人における全身健康とRSSTによる口腔機能の関連 第95回日本産業衛生学会
- ④石原裕一, 伊土美南海, 新明桃, 湯之上志保, 武儀山みさき, 細久保和美, 與那覇(野原)佳織, 古川匡恵, 内山章, 佐治直樹, 松下健二
認知機能低下および認知症と歯周病病態との関連性—もの忘れ外来患者を対象とした観察研究(1)— 第65回春季日本歯周病学会学術大会
- ⑤伊土美南海, 石原裕一, 新明桃, 湯之上志保, 武儀山みさき, 細久保和美, 與那覇(野原)佳織, 古川匡恵, 内山章, 佐治直樹, 松下健二
歯周病病態と口腔機能低下との関連性—もの忘れ外来患者を対象とした観察研究(2)— 第65回春季日本歯周病学会学術大会
- ⑥新明桃, 石原裕一, 伊土美南海, 湯之上志保, 武儀山みさき, 細久保和美, 與那覇(野原)佳織, 古川匡恵, 内山章, 佐治直樹, 松下健二
口腔機能低下と認知機能の関連性—もの忘れ外来患者を対象とした観察研究(3)— 第65回春季日本歯周病学会学術大会
- ⑦Kazuma Yama, Yuto Aita, Takuya Inokuchi, Yuko Ichiba, Ryutaro Jo, Takuma Okuda, Kota Tsutsumi, Daisuke Watai, Kanta Ohara, Seiji Morishima, Takashi Chikazawa, Yasushi Kakizawa
Trends in detection of high prevalent oral bacteria during the first 60 months of life using a next-generation sequencer
The 9th International Human Microbiome Consortium Congress
- ⑧Ryutaro Jo, Kazuma Yama, Yuto Aita, Kota Tsutsumi, Chikako Ishihara, Seiji Morishima
Comparison of oral microbiome profiles in 18-month-old infants and their parents
The 9th International Human Microbiome Consortium Congress

◆ 2022 年度の外部助成活用事業

- ①川戸貴行, 森田十蒼子, 尾崎愛美, 中井久美子, 山本高司, 田中秀樹: 歯周病が脂肪肝の発症に及ぼす影響の疫学・細胞生物学研究による解明。
科学研究費 基盤研究(C) 令和2年~令和4年 日本大学歯学部
- ②吉成伸夫, 宇田川信之, 田口明, 石原裕一, 尾崎友輝: 慢性炎症が基盤病態の歯周病、糖尿病、動脈硬化症に対する抗老化細胞療法の創出
科学研究費 基盤研究(C) 令和3年~令和5年 松本歯科大学
- ③石原裕一, 佐治直樹, 松下健二: 高齢者認知機能低下に係る歯周病病態、口腔細菌および口腔機能の影響についての研究
科学研究費 基盤研究(C) 令和4年~令和6年 ライオン歯科衛生研究所

評議員・理事・監事

令和5年3月31日現在

評議員

評議員16名

	氏名	役職名	
評議員	糸田 昌隆	大阪歯科大学 医療保健学部 教授	歯学博士
評議員	浦尾 康弘	ライオン株式会社	
評議員	川口 陽子	東京医科歯科大学 名誉教授	歯学博士
評議員	川本 強	公益社団法人日本学校歯科医会 会長	歯学博士
評議員	菊谷 武	日本歯科大学 教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック院長	博士(歯学)
評議員	小和田みどり	ライオン株式会社	
評議員	佐藤 秀一	日本大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評議員	嶋崎 義浩	愛知学院大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評議員	島田 康史	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 う蝕制御学 教授	博士(歯学)
評議員	仁井谷 善恵	広島大学大学院 医系科学研究科 口腔保健管理学研究室 助教	
評議員	西永 英司	ライオン株式会社	博士(歯学)
評議員	福田 洋	順天堂大学 大学院医学研究科 特任教授	医学博士(公衆衛生学)
評議員	満武 純	ライオン歯科材株式会社	
評議員	三宅 達郎	大阪歯科大学 歯学部 教授	歯学博士
評議員	柳沢 幸江	和洋女子大学大学院 総合生活研究科 研究科長	博士(栄養学)
評議員	吉田 直美	公益社団法人日本歯科衛生士会 会長 東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 口腔健康教育学 教授	博士(歯学)

理事

理事13名

役職	氏名	役職名	
代表理事 理事長	濱 逸夫	ライオン株式会社 相談役 公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 理事長	工学博士
代表理事 副理事長	内山 章	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 副理事長	博士(歯学)
業務執行理事	池永 和広	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 業務執行理事	
業務執行理事	堀池 祐子	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 業務執行理事	
理事	相田 潤	東京医科歯科大学 健康推進歯学 教授	博士(歯学)
理事	朝田 芳信	鶴見大学 歯学部 教授	歯学博士
理事	天野 敦雄	大阪大学大学院 歯学研究科 教授	歯学博士
理事	川添 堯彬	大阪歯科大学 理事長・学長	歯学博士
理事	西沢 邦浩	日経BP 総合研究所 客員研究員	
理事	野村 正子	特定非営利活動法人 日本歯周病学会 理事	
理事	三谷 章雄	愛知学院大学 歯学部 歯周病学 教授	博士(歯学)
理事	安井 利一	明海大学 学長	歯学博士
理事	山本 秀樹	公益社団法人 日本歯科医師会 常務理事	歯学博士

監事

監事3名

役職	氏名	役職名	
監事	上林 博	上林法律事務所 弁護士	
監事	木村 直人	木村直人税理士事務所 税理士	
監事	石井 義唯	ライオン株式会社 常勤監査役	

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所のあゆみ

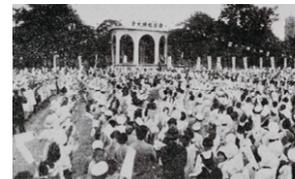
- 1913年** 口腔衛生啓発活動開始(写真①)
- 1921年** 「ライオン児童歯科院」開設(写真②)
- 1932年** 「第1回学童歯磨教練体育大会」(現:全国小学生歯みがき大会)開催(写真③)
- 1952年** 口腔衛生普及車「ライオン・ヘルスカー1号」完成(写真④)
- 1958年** 母子歯科保健活動(たんぼぼ運動)開始
- 1961年** 就業者への歯科保健活動(さくらんぼ運動)開始
- 1964年** 「財団法人ライオン歯科衛生研究所」設立
「ライオンファミリー歯科診療所」開設(東京・京王デパート)
- 1965年** 学童歯みがき大会をオリンピック競技場(国立競技場)で開催(写真⑤)
- 1984年** 台湾の園・小学校で歯科保健活動実施(写真⑥)
- 1992年** ライオン New Year セミナー(現:予防歯科セミナー)開始
- 1998年** マレーシアでの口腔保健活動実施
- 2004年** 設立40周年記念として「歯周病と全身の健康を考える」を発行
- 2005年** 視覚障がい者向け歯の健康冊子「さわってわかる歯みがきの本」監修
- 2007年** ホームページ開設、季刊誌「お口の時間」発行
- 2009年** 学童歯みがき大会のインターネット配信をスタート
- 2010年** 公益財団法人として内閣府より移行認定
- 2014年** 目黒駅前歯科診療所を東京デンタルクリニックとして五反田に移転・開院(2021年3月閉院)
「口腔機能への気づきと支援ーライフステージごとの機能を守り育てるー」を発刊
- 2015年** 「健康をみがく笑顔をふやす」シリーズ全4巻発行
- 2016年** LDH国際シンポジウム[健康寿命の延伸に向けた歯科医療の使命と可能性]を開催(写真⑦)
- 2017年** 「歯みがき100年物語」発行(写真⑧)
全国小学生歯みがき大会のDVD方式での開催をスタート
- 2021年** ライオン健康セミナー(現:予防歯科セミナー)Webによるライブ配信で開催をスタート
- 2022年** 第79回全国小学生歯みがき大会を開催。約25万人がDVDで参加(写真⑨)



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所
<https://www.lion-dent-health.or.jp/>

本部事業所

〒111-8644
東京都台東区蔵前1-3-28
TEL.03-6739-9001
FAX.03-6739-9757

名古屋事業所

〒460-0003
名古屋市中区錦2-3-4
名古屋錦フロントタワー10階
TEL.052-220-6780

大阪事業所

〒541-0057
大阪市中央区北久宝寺町3-6-1
本町南ガーデンシティ5階
TEL.06-7739-8422